

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) イタリアンライグラスの収穫・調製</p>	<p>(今月の作業のポイント) ○イタリアンライグラスの収穫・調製 ○トウモロコシ、ソルガムの作付け</p> <p>4月中旬頃からの気温上昇に伴い、イタリアンライグラスの伸長も旺盛になる。収穫適期は、栄養価が高く収量も多い出穂期（全体の半数の茎から出穂した頃）である。開花期になると、収量は増加するものの、繊維の消化率が低下し嗜好性も悪くなる（表右）。</p> <p>収穫適期の4月頃は数日周期で天気が変わりやすく、収穫直前の雨や強い風による倒伏は、収穫機械による刈取り作業、刈取り後に予乾する反転作業（写真1）の支障となり、作業効率や品質の低下を招く。このため、収穫やサイレージ調製作業は、天気予報や畑の状態を見ながら計画的に実施する。</p> <p>イタリアンライグラスのサイレージ調製は水分管理が重要であり、70%以下まで予乾することが推奨される。生草水分が80%以上であれば、晴天だと1日で約70~75%、2日で60~65%程度になるのを目安に予乾作業を行う。ラップサイレージに調製する際は水分40~60%、フィルム重複率50%でラッピングし、また6層巻きにすることでカビの発生を抑え長期保存が可能となる（写真2）。</p>

表 イタリアンライグラス1番草の成分値

	水分	粗繊維 消化率	乾物中 TDN
出穂期	84.7%	76%	69.2%
開花期	78.3%	64%	59.5%

日本標準飼料成分表から作成



写真1 テッダーの反転は、刈取り後の水分含量が高いうちに1~2回行う。



写真2 飼料畑でのラッピング

項 目	作 業 内 容																																																												
(2) トウモロコシ、ソルガムの作付け	<p>飼料用トウモロコシの二期作栽培では、安定した収量・品質を確保するために、一期作目の品種は、二期作目の播種適期までに確実に収穫できるものを選定する。品種の早晩性は相対熟度 (RM) で示されており、当センターの調査では、一期作目 (4月初旬播種、7月中・下旬収穫) は RM 114 以下、二期作目 (8月上旬播種、11月中旬収穫) は RM 115 以上の品種を組み合わせることで、年間 2,100~2,400 kg/10 a の可消化養分総量 (TDN) が得られることを確認している (下図)。</p> <div data-bbox="539 672 1340 840" data-label="Figure"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>3月</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">●—●</td> <td></td><td></td> <td>▲—▲</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">1作目播種</td> <td></td><td></td> <td colspan="2">1作目収穫</td> <td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td> <td>●—●</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td> <td colspan="2">2作目播種</td> <td></td><td></td><td>▲—▲</td><td></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td> <td colspan="2">2作目収穫</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">図 トウモロコシの二期作の作付け体系例</p> <p>一期作目播種が4月初旬にできず下旬以降に遅れるときは、二期作目の収量と品質の保持が難しいため、通常の作付け体系にする方が望ましい。この場合、RM 100 程度の早生品種だと茎葉が十分に生育する前に絹糸抽出に至り、収量が低下することがある。このため、RM 125 程度の中生、晩生の品種を選定し、登熟に要する十分な生育期間を確保することで収量低下を抑えられる。また、播種深度は通常2~3 cm であるが、晩霜が予想されるようであれば覆土を少し厚くする。</p> <p>ソルガムとの混播栽培 (写真3) では、トウモロコシは早生品種、ソルガムはソルゴー型もしくは兼用型の中生品種を4月上・中旬に播種する。ソルガムは、種子の冠水抵抗性がトウモロコシより高く、播種後に湿害が発生しても減収回避が期待できる。播種時期の遅れやソルガムの播種量が多い場合は、ソルガムの生育が勝りトウモロコシの生育抑制、子実の矮小化につながるとともに、ソルガム収穫量の増加 (水分過多) がサイレージの水分調整を難しくする。一方で、ソルガム播種量が少ないとソルガム二番草の収量が低くなるため、播種量はトウモロコシ、ソルガムともに 2 kg/10 a を目安に、適正な時期に播種することを心がける。</p> <div data-bbox="1066 1303 1396 1720" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">写真3 トウモロコシとソルガムの混播栽培</p>	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	●—●				▲—▲						1作目播種				1作目収穫										●—●										2作目播種				▲—▲										2作目収穫	
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																																				
●—●				▲—▲																																																									
1作目播種				1作目収穫																																																									
				●—●																																																									
				2作目播種				▲—▲																																																					
								2作目収穫																																																					

(作成 畜産研究センター)